

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	横浜市東部地域療育センター 児童発達支援事業所「わかば」		
○保護者評価実施期間	令和6年11月18日	～	令和6年12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日	～	令和6年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の発達や障害特性に応じた、専門的な視点による支援を行っている。 保護者向け勉強会などによる、利用者への情報提供を頻繁に行っている。	構造化された環境の設定や視覚支援を提供できている。 職員全体で情報共有を行い指導内容を検討している。 療育へのスーパーバイズと職員研修を実施している。	個別支援計画作成時以外のアセスメントを強化する。 療育場面で日常的に使用できる標準化したアセスメントツールを作成する。
2	利用者への相談体制が充実している。 保護者間の交流の場を随時設けている。	療育内で職員による個別のフィードバックを行っている。 定期に個別面談の時間を確保している。 保護者の要望に応じた個別相談を随時実施している。 定期的に行う保護者懇談会以外に随時フリートークの場を設け保護者同士の交流を実施している。	クラス内での交流以外に、事業所全体の利用者が情報を共有するシステムを検討する。（掲示板、SNSの利用など）
3	東部地域療育センター本館との連携が密に行われている。 併行通園先の巡回訪問を実施できている。	福祉相談室を中心に情報共有を行い、必要に応じて診療部や地域の機関への案内などを行っている。 地域支援課と共同して巡回訪問を行い、保育所、幼稚園等との連携を強化している。	巡回訪問の頻度と実施方法について検討を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースが限られており、活動などの状況によっては人数に比して手狭になってしまうことがある。	構造化によるスペースの区分や、状況毎に設定が変わることなどから、逆に空間の利用が制限されてしまうことがある。	状況に合わせて利用者を分けたり、多目的室などを有効利用するなどして、空間の利用方法を検討していく。
2	保育所、幼稚園、民間事業所等などとの地域連携の在り方について継続的な検討が必要。	併行通園先、福祉相談室、事業所職員3者の日程調整や、職員の選定が難しく、柔軟な動きがとりにくい。 新規に開所した事業所であるため民間事業所との連携が少ない。	地域連携に携わる職員の育成を行う。（療育とソーシャルワークの知識、技術の習得） 地域の民間事業所間で情報を共有を共有するなど、連携の方法を模索していく。
3	事業所のサービス提供期間が1年限定であるが、終了後の支援については具体的に示されていない。そのことが、利用者の不安につながってしまう。	児童発達支援センターは定員が限られており、単年で利用終了となる方も多い。しかし、民間療育への移行や相談の場の提供など、終了後の具体的な支援の取り組みが開始されていない。	次年度は事業所の相談機能を拡充させ、終了者へのフォローアップを行う。民間の事業所に移行した利用者に対し、事業所間の情報共有などの連携方法を検討する。